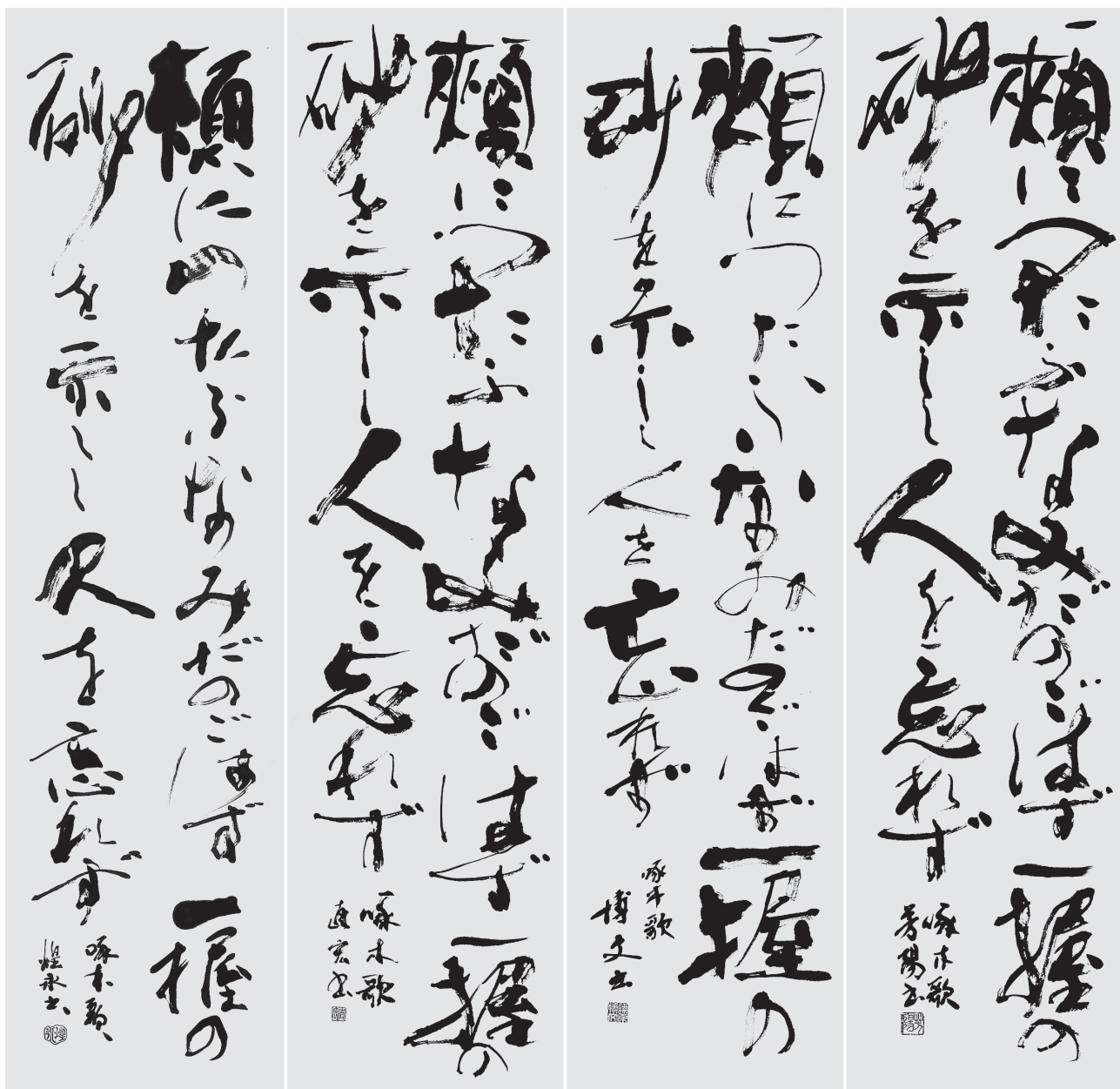


北澤翠香先生選評



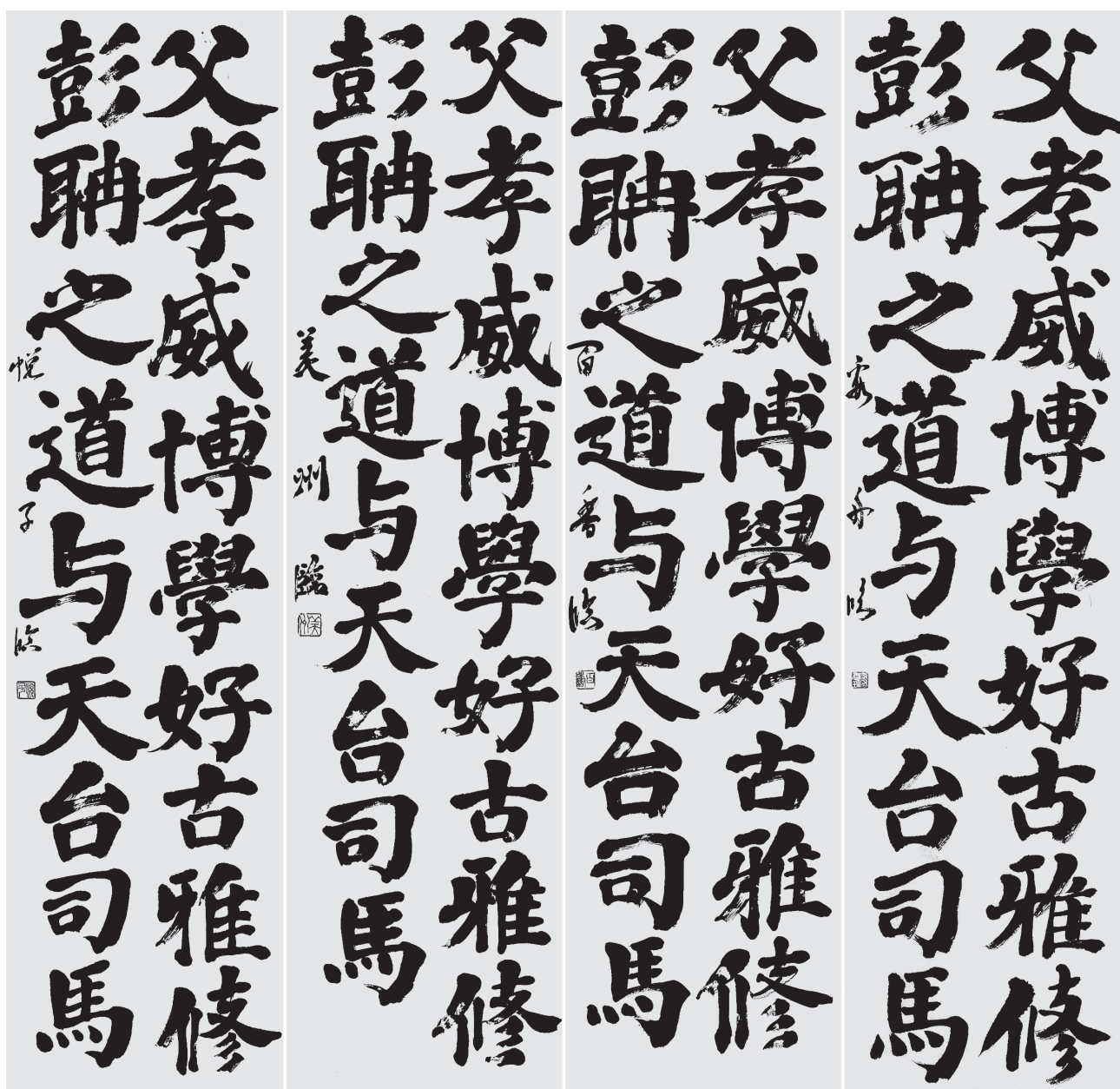
鈴木芳陽 推選
筆を自由自在に操り、強弱も見事。パネがあり重厚な沈着した線質が、スケールの大きな世界観を生み出しています。観る人を魅了して止まない風格がある作。

藤原博文 推選
運腕大きく、筆の握りが軽く力まず、自由奔放な表現は味がありますね。筆捌きも巧みで懷を広くし、字の大小、細線を効果的に、一気呵成な力量に感服します。

有明直宏 推選
落筆が高く温かい線質が筆の抑揚・浮沈で紙面を捉え、大きなうねりとなった。歌を十分理解した主張が、情緒豊かな完成度の高い表現となり、圧巻な作である。

藤村煌永 推選
やや漢字を主張した、自然で書き慣れたリズムで、字の大きさを考慮し、統一感がある作となりました。淡墨で潤筆の素敵な「頼」。潤筆は二行目にも欲しいですね。

江幡太瓏先生選評



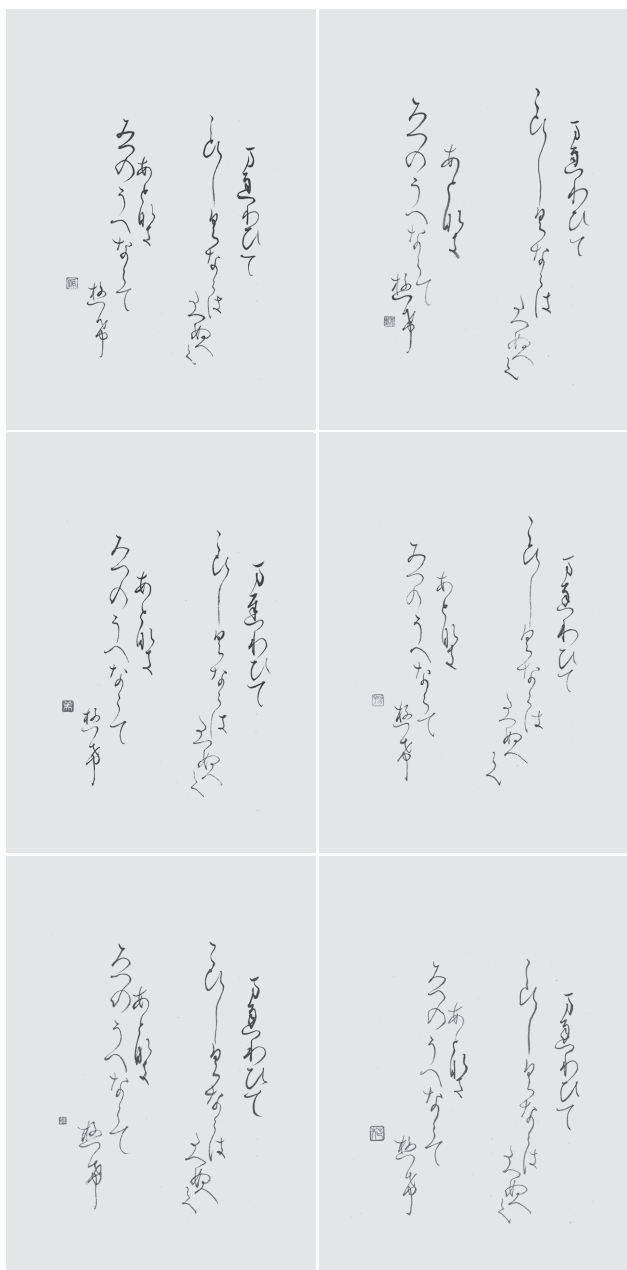
冲山 霞舟 推選
落ち着きがあり慌てずゆつたりと、顔法特有の払い、はね、転折の角度、膨らみもお見事です。一つあげれば最後の「馬」もう少し上がって終わりがかったか。

大竹 百香 推選
濃墨かつ羊毛！楷書でも顔真卿の臨書だから成せた業かもしれません。重厚感のある中で程良い渴筆が効果的で白が美しく、躍動感のある素晴らしい作となった。

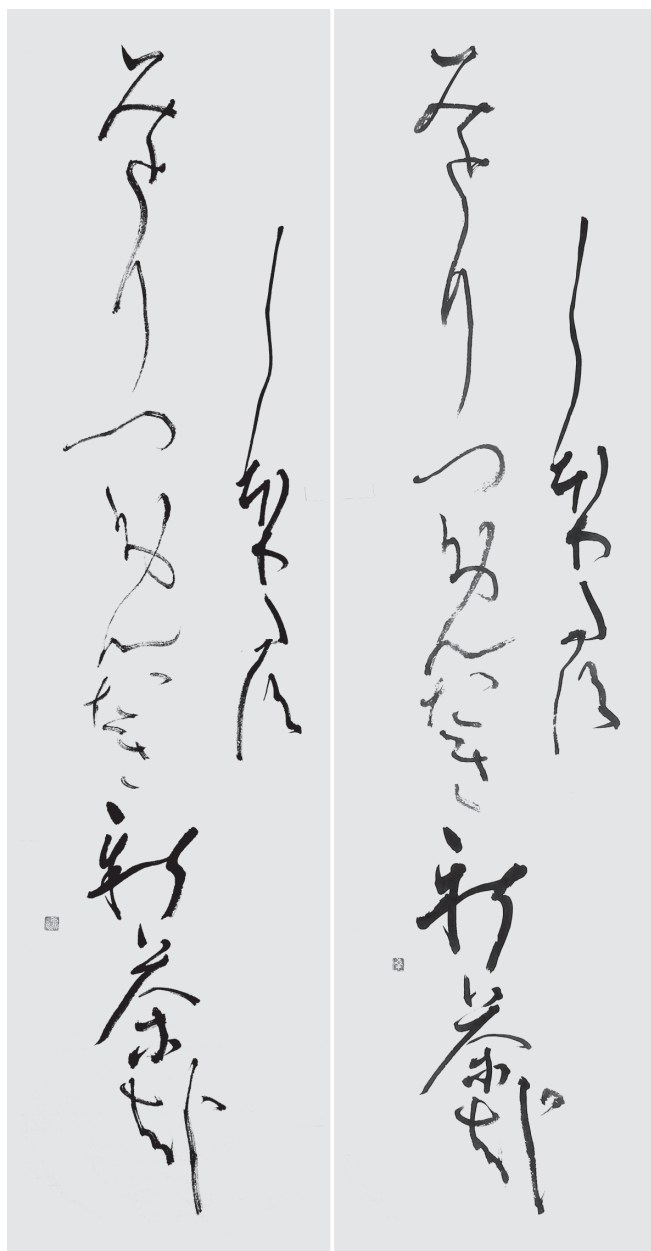
久松 美州 推選
筆圧強く、深く沈んだ線が魅力です。顔法では、はねの部分にもっと「ため」リズムと筆先の弾力を用いてゆつくりはねる。お名前本文と合っていて良いです。

宮内 悦子 推選
画数の多い字は少し控えめに、少ない字は大きくせず、大きくが基本です。墨量の変化も程良く顔法のはねが特に良いですね。お名前ももう少し太くしたいですね。

佐々木優子先生選評



笠原博子先生選評



中屋有里恵 準七
小粒ながら形態を正確に把握し、穏やかな作品です。渴筆部があると更に作品に深みがついて書くと一層よい作品になるかと。

牛島白蘭 六段
ふくよかで弾力ある線質、変化に富み原帖の美しさを習得された作品です。行間を眺めて余裕を持つて書かれると更に余白が生まれてくるかと。

森下喜久子 五段
素直に丁寧な練習で好感が持てる作品です。筆圧の変化をつけてみると渴筆も生まれ、リズムに乗り、作品の奥行きが生まれるのでは。

太子美智子 師範
淡々とした筆運びの中に原帖のふくよかで弾力性のあつた線を良く捉えて見事な作品。穂先が食い込む線が加わると更に作品に深みが増すのでは。

住吉房子 師範
明るく伸びやかに書かれています。濃淡の変化も自然で行と行の間が響き合っています。やや筆勢に欠けリズム感が乏しいのが惜しまれます。

森花泉 準師
運腕大きく、自然な流れが美しく纏まった作品です。筆の浮沈を使つてリズムに乗つて書くのと一層、原帖のダイナミックな強さが出るのでは。

霜鳥卯水 推選
筆管をしっかりと立て紙に食い込んだ細い線は、行の揺らぎも併せて表現し魅力的です。左行の渴筆「免」の斜めの線が軽く、筆が浮いてしまったのが悔やまれる。

上飯屋幸恵 推選
筆先から紡ぎ出されてくる筆線は引き締まり、美しい流れとなっている。沈潜し、そして軽やかに。弾むリズムも心地良い。終句の纏め方も見事です。

葛西玄涛先生選評



香川絲翠 師範

遠近のどちらで見ても透明度の高い直線が紙面いっぱい広がっています。起筆から収筆までの腕の動きが淀みなく自然な動きだから生じた線

石橋竹寿 八段

造形の安定度が、とても高い。疎密の比率と横画の角度が、良く研究されて、正確な楷書を書かれています。臨書の研究方法の参考となっている。

稲葉理恵 師範

ゆつくりした運筆で、大らかな気を感じさせる。随所にある渴筆が、柔らかくて優しいので、紙面から受ける空気を効果的に引き上げてくれる。

久野峰扇 準七

鶴亭先生の手本の雄大さに近い曲直線を含んでいます。和らいた線の渴筆が、遅速の変化に影響を強くして、激しい変化の線を多く見せています。

江戸聖采 師範

紙面に食い込む重量感が強いながらも切れのある鋭い線が印象深い。適度にある渴筆が、速度変化のある作品としての価値を更に高めています。

橋本佳和 七段

安定した造形で完成度の高い作品だ。真摯に古典の楷書を学んでいるのが、伝わります。余白に負けない強い線は、作品制作に反映されていていさそう。

寺島蘭子 師範

渴筆が多くても硬くならない線が魅力的です。線に迫力と勢いが見られて、木簡のリズムを高い水準で紙面にまとめて、破綻なく書き上げた。

川越友志 四段

「任」の三本の横画の長さの違いなど、注意深く観察しながらも安定した運筆で書いています。紙面にしっかりと墨が入っていく線の重さが良い。

藤田眞理子 準師

起筆の角度を一定に保つことを強く意識して、原帖の線質を忠実に表現しています。線の角度と文字造形も同様に観察し、忠実な臨書となった。

成田純子 準五

とても丁寧な運筆で、堂々とした力作でありながら、軽快さを伴っています。腕の動きが軽やかになるような基本姿勢を安定して保たれている。

所佳子 八段

重厚な線と軽快な線が巧く混在しています。太い線も軽重を含みながら、滑らかに引かれていて、とても清潔な印象になった。高度な技術が感じられる。

岡田結花 準二

華麗な舞いを見せる線は、木簡を楽しく学ぶ上で必要なことだ。良い方向の作品です。抜筆の高さ、速さを更に磨くと傑作への栄養になりそう。